

緩和医療における補完代替医療の意義

Significance of the Alternative medicine at the palliative medicine.

平田 章二

平田口腔顎顔面外科

In the terminal cancer patients, the pain of the body gets stronger by tumors and cachexia.

In a palliative medicine, such the painful patients were not treated positively against tumors .

In order to alleviate painful symptom, an approach to a tumor and a living body of cancer patients is necessary. Alternative medical treatment reforms disorder of a Nervous, an Endocrine and an Immunity system network. And alternative medical treatment doesn't give a physical pain to terminal cancer patients. Alternative medical treatment restricts an advance of tumors and reforms cahexia. Consequently, QOL of terminal cancer patients improves. Like this, the Alternative medicine attains an important part at the palliative medicine.

【はじめに】

進行，末期癌患者の身体的苦痛は，腫瘍そのものによる苦痛（機能障害，癌性疼痛）と，悪液質による苦痛（倦怠感，食欲不振，せん妄，電解質異常など）がある。このような苦痛症状を緩和するには，症状緩和だけでなく，癌病巣へのアプローチと担癌生体へのアプローチを行う必要がある。いわば，川下での川掃除だけでなく，川をきれいにするためには，川の上流での環境改善が，必要となる。そのため緩和医療における補完代替医療の目的は，担癌患者の神経-内分泌-免疫ネットワークの改善，増強を図り内的環境を改善し，患者の QOL（quality of life）を向上させることにある。

そこで今回我々は，進行，末期癌患者に対し，AHSS を中心とした，補完代替医療を行い，症状の緩和，QOL の維持，増強が認められ，さらに腫瘍も縮小した症例を経験したので，緩和医療における補完代替医療の意義について報告する。

【症例】

すでに大量化学療法と full dose 放射線治療が行われた術後再発進行末期下顎癌（両側頸部転移）に補完代替医療を行った。そのスケジュールは，まず，徹底した食事指導と生活指導そして傾聴を中心とした精神免疫療法を基本とし，前向きな生活を心がけさせた。その上で，全身免疫を活性化させるために，機能的食品である AHSS（笹から抽出した植物多糖体）を使用した。さらに，近代（西洋）医学として低用量化学療法を併用した。その結果，明らかな苦痛症状の緩和，腫瘍の縮小がみられ，寝たきり状態であったが退院することができ，これらより日常の QOL が向上し，生存期間も延長されたと思われた。

【考察】

「治療の手立てがない。」といわれ緩和医療を受けている終末期がん患者の中でも多くの患者は，健康食品や気功などの補完代替医療を行い，わずかな可能性に大きな希望をいただいている。そこで患者と一緒に前向きに補完代替医療を行うことにより，人生の最後をまとめつつ，前向きになれ，そのことが腫瘍の進行を抑え，また悪液質を改善させ QOL の向上につながる。このように補完代替医療によって最後まで患者を支えることができ，補完代替医療の緩和医療における意義は大きい。